



▲ゴロゴロ野菜のカレーにくぎ付け



▲目の前で巨大ハムが切り分けられます



▲11月2日の前夜祭では和太鼓「舞華」の演奏も

山田ふれあいまつり

山田の食が大集合!

11月3日、山田支所前特設会場に大行列が。山田ふれあいまつりの合併10周年特別企画として配布された、地元食材をふんだんに使った野菜カレーと4つの巨大骨付きハム。これを一口食べようと、数えきれないほどの人が集まり、1つ8kgの巨大ハムはあっという間に骨だけに。切り分けただけのハムを食べた人は「塩が効いていて、とってもおいしい!」と、肉の旨みと絶妙な塩加減に頬が緩んでいました。その他、岩手県山田町の特産物や地元野菜の販売コーナーなどにも開始直後からお客さんが殺到。会場はまるで市場のような活気に満ちていました。また、ステージには山田中学校吹奏楽部やオミザイルなどが登場し、音楽やダンスで会場を盛り上げていました。

楽しくホットなまちの話題をご紹介します まちかど通信

夢・創造 自然の家まつり

からだいっぱい楽しんで



▲力だけでは遠くへ飛びません

10月23日、水郷小見川少年自然の家で行われた自然の家まつりでは、けん玉大会に竹馬コーナー、ポニーの乗馬体験など子どもたちの興味をひく催しがたくさん。訪れた子どもたちはあっちで遊んでこっちで遊んで、と落ち着く暇もなく駆けまわっていました。

強い逆風の中行われた靴飛ばし競争では、蹴り上げたスリッパが風にあおられてマイナス記録になってしまうことも。参加者たちは、低空で遠くへ飛ばすために試行錯誤しながら、1位目指して何度も挑戦していました。

サロンくろべ開設

ゆったりと流れる憩いの時間

10月21日、地域の高齢者を中心とした憩いの場を設けようと小見川中央地区まちづくり協議会が企画したサロンくろべが旧くろべ館で開設されました。この日は、約50人の参加者が集まり、サロン内の到る所で輪を作り、世間話や互いが互いの先生となりながら折り紙をするなど、思い思いに時間を過ごし交流を深めました。

協議会会長の西岡敏明さん（小見川）は日常のちょっとした会話を楽しむ参加者の様子を見て「ゆくゆくは週に1回開設し、琴の体験など色々なことを楽しんでもらいたい」と意気込みを話しました。



▲サロンは毎月第3金曜日10時から15時まで開設しています

